

○蔵田厚津子* 田中麻紀子** 藤居真理子*

(*東京家政学院大、**東京家政学院短大)

【目的】一般に赤色系天然染料には、すおう、紅花、茜、コチニール等がある。その中でコチニールは、動物染料であるという珍しさに加え、媒染剤、pHによって赤色から紫色まで幅広い色相を得ることができる。また、特に染色堅ろう度が高いといわれている。本実験では、赤色（猩々緋：ディープ イエローイッシュ レッド）、梅紫色（ダール レッドパープル）の染色布を準備し、着物（和服）としての実用上必要と思われる耐光堅ろう度等10種類の堅ろう度試験を行い、若干の知見を得たので報告する。

【方法】試料布：絹100%、試料：コチニールシルバーを用い、浸染とする。媒染法はアルミニウムによる先媒染、錫による同浴媒染とし、それぞれ濃、中、淡色について行った。

【結果】紫系は、耐光堅ろう度が3級前後であった。それ以外は、ほとんどが4-5級ないし5級であった。赤色系は、耐光堅ろう度が4級、耐洗濯堅ろう度（石けん）は、1-2級程度であった。また、アルカリ汗に対しては、2ないし3級であった。それ以外の試験結果はほとんど4-5級ないし5級であった。以上の結果からコチニールによる染色は、必ずしも染色堅ろう度が良いとは言えなかった。よって、染色、媒染の条件をふまえ、消費科学的立場から実用に供する必要がある。